

教員名	野口 徹 (NOGUCHI Tohru)
所 属	文教育学部言語文化学科応用言語学講座
学 位	Ph.D. (1995 マサチューセッツ大学アマースト校)
職 名	助教授
URL/E-mail	noguchi@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

文法理論 / 生成文法 / 統語論 / 意味論 / 照応

## ◆主要業績

総数 (2) 件

- ・ "On Semantic Composition in Reflexive Anaphora." 『言語研究の宇宙：長谷川欣佑先生古希記念論文集』, pp. 232-250, 開拓社.
- ・ "Semantic Composition in Reflexivization." Proceedings of the HPSG05 Conference, pp. 540-560, Stanford, CA: CSLI. (<http://csli-publications.stanford.edu/>)

## ◆研究内容

2003年度より継続中である科学研究費による研究課題「再帰形態素の特質を明らかにし照応理論を再構築する研究」を中心に研究を進めた。9月に出版された論文”On Semantic Composition in Reflexive Anaphora”では、中心的な主張について大まかな検討を加えたものを提示したが、その主張を更に発展させたものを8月にポルトガルで開催された国際学会 Lisbon Workshop on Binding Theoryにおいて発表し、研究者との意見交換を行い、その結果を10月に刊行された論文集において、”Semantic Composition in Reflexivization”として出版した。この研究と平行する形で、意味的構成性に関する文献に目を通し、研究課題との関連を探った。また、11月に九州大学で開催された日本英語学会 23 回大会に出席した。

## ◆教育内容

学部においては、コア科目「中級英語理 Ba」において英語の授業を担当し、「言語学概論」においては、言語文化学科所属の学生を対象に言語学の入門の授業を行い、「英語学概論」及び「英文法演習」においては、英語圏言語文化コース所属の2年生を対象に統語論を中心とした英語学の入門の授業を行い、「特別演習（言語研究方法論）I」及び「特別演習（言語研究方法論）II」においては、同コースの3年生を対象に統語論の中級レベルの授業を行い、「特別演習（言語資料分析）II」においては、卒論作成中の学生に対する専門分野の指導を行った。大学院においては、「英語学特論（統語論・意味論）」において、比較的最近の統語論・意味論に関する文献をいくつか取り上げ、詳細な検討を行った。また、英語圏言語文化コース所属の3年生を対象に、9月と11月から3月の2回にわたり、統語論の勉強会を主催し、学生の当該分野に関する理解力の強化に努めた。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

現在取り組んでいる研究課題では、再帰代名詞の中心的な性質がほぼ明らかになりつつある。再帰形態素の意味的性質と形態統語的性質との相互作用からほぼ予測できるからである。しかし、再帰代名詞には、談話や視点に依存した用法や強調用法など、周辺の用法もかなりある。また、言語間の違いについても十分考察を進める必要がある。今後は、これまでに得られた成果を基に、さらに対象とする現象の範囲を拡張していく予定である。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

私の所属する英語圏言語文化コースでは、英語学と英米文学を専門に学ぶことができます。私は、英語学の授業科目を担当していますが、理論言語学的な立場から、統語論、意味論、形態論などを授業では扱っています。一言で言えば、英語を人間のことばの一つとして捉え、英語を背後から支えている仕組みをできる限り客観的に明らかにしようという取り組みです。(一般的には、「生成文法」と呼ばれています。) 英語に限らず、人間のことばには、表面を見ただけでは分からないような深い意味を持つ仕組みが潜んでいます。そのような「無意識の知識」を明らかにすることにより、英語とはどのような言語なのか、また、人間のことばにはどのような仕組みが働いているのか、学生の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。このような事柄に興味を持つ方を歓迎いたします。